

2008 年度

東京学芸大学 研究結果報告書

学校体育の武道（柔道）指導の在り方

－柔道必修化に向けての指導者向け教材づくり－

指導教官 射手矢 岬 准教授

東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系
健康・スポーツ講座 委託研究生

島田 純
(富山県砺波市立庄西中学校 教諭)

目 次

1	はじめに	1
2	学校体育における柔道の歴史について	1
3	日本の伝統と文化を伝えていく必要性について	6
4	保健体育における柔道の現状と課題	
	(1)施設面での問題(行政からの援助)について	8
	(2)柔道衣(武道用具)の個人負担について	9
	(3)教員の指導力向上について	9
5	柔道の授業における段階的な指導法	
	(1)研究の目的	1 1
	(2)研究の方法	1 2
	①撮影場所	1 2
	②手順	1 2
	③技術対象	1 3
	(3)柔道指導の参考書、実技指導書との比較による検証	1 3
6	結果	1 4
	「受け身の段階的指導」	
	(1)後ろ受け身 ①～⑦	1 7
	(2)横受け身 ①～⑩	2 0
	(3)前回り受け身①～③	2 5
	「基本的な投げ技の段階的指導法」	
	(1)膝車 ①～⑥	2 7
	(2-1)大腰(受け身) ①～④	3 0
	(2-2)大腰 ①～③	3 2
	(3)大内刈り ①～④	3 3
	(4)大外刈り ①～⑤	3 5

(5-1)体落とし(受け身)①②	38
(5-2)体落とし ①～④	39
(6)払い腰 ①～④	41
(7)小内刈り ①～③	43
(8)背負い投げ ①～⑤	44
(9)内股 ①～③	47
7 考察		
(1)後ろ受け身	49
(2)横受け身	50
(3)前回り受け身	50
(4)膝車	51
(5)大腰	51
(6)大内刈り	52
(7)大外刈り	52
(8)体落とし	53
(9)払い腰	53
(10)小内刈り	54
(11)背負い投げ	54
(12)内股	55
8 まとめ	56
参考文献一覧	58